

平成31（令和元）年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺小学校

1 附属天王寺小学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

(2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

(3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員630人(1学級35人)

(4) 幼児・児童・生徒数

621人(男子319人・女子302人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 23人(うち, 臨時的雇用8人), 非常勤講師 3人
事務職員1人, 臨時用務員(用務員)1人, 臨時用務員(調理師)7人, 教育後援会雇い事務職員1人
カウンセラー1人, 警備員2人

2 附属天王寺小学校の特徴

本校は、大阪教育大学の附属する小学校で、教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

3 附属天王寺小学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員研修に研修の場を提供すること。

4 附属天王寺小学校の学校教育目標

個が生きる学校

「自他の人格を尊重し、実践力のある子」「生命を尊重し、健康で安全につとめる子」「みんなと協力してしごとのできる子」「ものごとを最後までやりとおせる子」「きまりを守り、明るくさせる子」

5 附属天王寺小学校の学校教育計画

1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着

学び合う集団の形成を目指し、各教科、道徳、特別活動等を通じて共に考える力、伝え合う力の定着を図る。

2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進

誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。

6 附属天王寺小学校の令和元年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------|--------------|---------|-----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| | | E | 判定できない |

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | 個が生きる学校 |
| 学校教育計画 | 1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着 学び合う集団の形成を目指し、各教科、道徳、特別活動等を通じて考える力、伝え合う力の定着を図る。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|-------------------------|----------------------------------|---|--|----|--|----|--|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 学び合う集団の形成 (学級経営) | ①学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫する。 | <p>教員アンケート結果 (回答24人)</p> <p>◎学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【30.4%】</p> <p>②工夫した 【65.2%】</p> <p>③あまり工夫しなかった【4.2%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%】</p> <p>今年度、職員研修の場において、学級当番の運営方法や児童への関わり、指導について研修を行い、課題や方法を共有する場面をもうけた。その結果、教員の学級運営に対する問題意識は高まったと考える。一方で、「よく工夫した」と回答した教員が30.4%と低く、具体的な取り組み、効果的な取り組みについて指導力を高めることに課題があることがわかった。</p> | <p>当番活動の内容、方法についての具体的なアイデアやその効果についての職員研修の場を設定する。</p> <p>そのことで「あまり工夫しなかった」を0%にすることをめざす。</p> | B | <p>目的である学びあう集団作りと、手段である当番活動との関連が不明である。</p> <p>当番活動のあり方の検討が必要である。</p> <p>児童の関心を引くための教材の工夫、検討が必要である。</p> | B | <p>学び合う集団作りの定義や具体的方策について、職員会議などで検討し共有する。</p> |

| | | | | | | |
|--|---|--|----------|--|----------|--|
| <p>②各授業や、特別活動において、継続的に対話活動を取り入れる。</p> | <p>◎各授業や、特別活動において、対話活動を取り入れたか</p> <p>①ほとんど取り入れた 【52.2%】 ②概ね取り入れた 【34.8%】 ③あまり取り入れなかった【13%】 ④取り入れなかった 【0%】</p> <p>◎授業での対話活動等を通して、子ども同士が互いに学び合う雰囲気は感じられましたか</p> <p>①よく感じられた 【54%】 ②感じられた 【33.9%】 ③あまり感じられなかった【9.1%】 ④感じられなかった 【3%】</p> <p>教員アンケートで「対話活動をほとんど取り入れた」「概ね取り入れた」を合わせて87%、保護者アンケートで「よく感じられた」「感じられた」を合わせて87.3%であったことから、授業での対話活動は概ね、継続的に設定できたと評価できる。</p> <p>一方で、新学習指導要領において、主体的で深い学びの実現を示されているにもかかわらず、教員アンケートで「あまり取り入れなかった」が13%もあったことは大きな課題である。</p> | <p>対話活動を「あまり取り入れなかった」の13%を減少させるために、次年度の研修、研究授業において、討論の話題として設定する。</p> | <p>B</p> | <p>対話活動が形骸化しないように、教員がその趣旨を理解する必要がある。</p> <p>そのために日常的に教員間で情報館する場を設ける努力を続けてほしい。</p> <p>また討論の有無だけではなく、そこで話される言葉の選び方まで考察する必要がある。</p> | <p>B</p> | <p>研修・研究会議等を通して、教員の共有課題として継続的に検討する。</p> |
| <p>③児童の学級の雰囲気の満足度を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より20%以上とする。(※QUアンケートを活用)</p> | <p>◎児童の学級の雰囲気アンケート結果 (回答612人)</p> <p>学級生活満足群</p> <p>1年生 65% (全国平均42%) 2年生 63% (全国平均49%) 3年生 71% (全国平均42%) 4年生 73% (全国平均43%) 5年生 47% (全国平均43%)</p> | <p>全国平均を20%上回ったのは、3学年であった。</p> <p>学級の雰囲気の満足度を高めるためには、対話活動等、一人一人が自分の思いや考えを表</p> | <p>B</p> | <p>QUの結果を年度初めと年度終わりの比較をさせたり、QUの結果に基づく検討会議を開催することが必要である。</p> <p>また学年による数値の上下の原因も検討が必要である。</p> | <p>B</p> | <p>QUアンケートの経年変化を評価し、その対策を安全対策委員会、生活指導部と連携し、検討する。</p> |

| | | 6年生 62% (全国平均43%) どの学年も全国平均より数値が高かったことから、本校児童の学校生活への取り組みに対する意欲は非常に高く、雰囲気維持、継続しようとする態度が身につけていると推測できる。 | 現し、互いに認めあえるようになることが必要である。 次年度の研修、研究授業において、討論の話題として設定する。 | | | | |
|--------------------|---------------------------------|---|--|----|--|----|---|
| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (2)確かな学力の定着 | ①学習課題や発問を工夫し、多様な意見が出るようにする。 | <p>教員アンケート結果 (回答者24名)</p> <p>◎児童から多様な意見がでるように、学習課題や発問を工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【47.8%】</p> <p>②工夫した 【47.8%】</p> <p>③あまり工夫しなかった【4.3%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%】</p> <p>教員アンケートで、学習課題や発問を「よく工夫した」「工夫した」を合わせて、95.6%であったことから、教員が強く問題意識をもって取り組んだと評価できる。</p> | <p>教員の高い問題意識をさらに高めるために、課題設定や発問の工夫について、B授業設定の必要条件として共有化し、互いに相互評価できるようにする。</p> | B | <p>課題設定が重要なのは同意する。今後も教員各位が格授業での学習課題を精査することを期待する。</p> <p>B 授業設定の必要条件として継続的に改善に努めてほしい。</p> | B | <p>研修・研究会議等を通して、教員の共有課題として継続的に検討する。</p> |
| | ②ノートやテストの返却の際、児童へのフィードバックを工夫する。 | <p>教員アンケート結果 (回答24人)</p> <p>◎ノートやテストの返却の際、助言や指導を行いましたか</p> <p>①よく助言や指導を行った 【26.1%】</p> <p>②助言や指導を行った 【69.6%】</p> <p>③あまり助言や指導を行わなかった【4.3%】</p> <p>④助言や指導を行わなかった 【0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答439人)</p> <p>◎ノートやテストに対する教員からの助言や指導はわかりやすいものでしたか</p> | <p>保護者の方にも伝わるような、ノートやテストの助言や指導のあり方についての教員研修の場を設定する。</p> | B | <p>これまでもノート指導を重点に取り組んでいるが、その効果はでているのか。その指導法や児童へのフィードバックの方法を共有すべき。教師からの言葉かけの大切さを再確認してほしい。</p> <p>B 授業設定の必要条件として継続的に改善に努めてほしい。</p> | B | <p>研修・研究会議等を通して、教員の共有課題として継続的に検討する。</p> |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|----------|--|----------|---|
| | | <p>①大変わかりやすい 【36.2%】 ②わかりやすい 【46%】 ③あまりわかりやすいものでなかった 【13%】 ④あまり助言や指導がなされなかった 【4.8%】</p> <p>教員アンケートで、ノートやテストに対する助言や指導を「よく行った」「行った」を95.7%、保護者アンケートで「大変わかりやすい」「わかりやすい」82.2%であった。</p> <p>95.7%と高い数値であったことから、教員が助言や指導を自覚的に行ったことは推測できるが、教員アンケートと保護者アンケートの差が13.5%もあることから、教師の助言や指導内容として、そのよさを伝えることが不十分であったと評価できる。</p> | | | | | |
| | <p>③児童の学習意欲を高める。 B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p> | <p>児童QUアンケート結果 (回答612人)</p> <p>学習意欲 ※満点12点</p> <p>1年生 11.1点 (全国平均10.0点) 2年生 10.8点 (全国平均10.0点) 3年生 10.8点 (全国平均10.0点) 4年生 10.5点 (全国平均9.6点) 5年生 9.9点 (全国平均9.6点) 6年生 9.9点 (全国平均9.6点)</p> <p>全国平均より、1年生は1.1点、2年生は、0.8点、3年生は0.8点、4年生は0.9点、5年生は0.3点、6年生は0.3点高かった。</p> <p>学習意欲は学級生活満足度と相関関係にある。学級成果湯満足度の高さが学習意欲に影響を及ぼしていると推測できる。一方で、学年が上がるにつれ</p> | <p>学年が上がるごとに学習意欲が低下する原因を探り、具体的な取り組みを検討し、教員全体で共有化する。</p> | <p>B</p> | <p>学習意欲と学級生活満足度に相関が見られない学年もある。再検討が必要である。</p> <p>また、1年生時の学習意欲が6年生時に下がっているのは、天小の教育方法(授業の組み立て)を厳しく見直す必要がある。</p> | <p>B</p> | <p>学習意欲と学級生活満足度の相関について、児童の具体的な姿をふまえ、検討する。</p> |

| | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--|--|--|--|--|
| | | て、学習意欲が下がる傾向にあり、その対策の必要性が課題として明確になった。 | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--|--|--|--|--|

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 個が生きる学校 |
| 学校教育計画 | 2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進 誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|---|----------------------------------|--|--|----|---------------------------|----|--------------------------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1)安心・安全な環境 ※校内整備、環境整備を行い、教員が働きやすい、児童が学びやすい環境を整える。 | ①児童が学びやすいように、教室や特別教室の環境を継続的に整える。 | <p>教員アンケート結果 (回答者24名)</p> <p>◎教室や特別教室を児童が学びやすく整えることができましたか</p> <p>①よくできた 【39.1%】</p> <p>②できた 【60.9%】</p> <p>③あまりできなかった 【0%】</p> <p>④できなかった 【0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答439人)</p> <p>◎お子様の教室や特別教室は、児童が学びやすく整えられていると感じられましたか</p> <p>①よく感じられた 【56%】</p> <p>②感じられた 【35.8%】</p> <p>③あまり感じられなかった 【6.6%】</p> <p>④感じられなかった 【1.6%】</p> <p>教員アンケートで、環境改善について「よくできた」「できた」をあわせて100%、保護者アンケートで「よく感じられた」「感じられた」を合わせて91.8%であった。</p> <p>昨年度より、学校教育改善に向けて、職員作業を継続的に行っており、教員の環境改善に対する問題意識はかなり高いと評価できる。</p> | 児童の学習環境の改善には何が必要で、何が効果的か、教員全体で検討し、その具体的な取り組みを、学校集会やOCTで強調して伝えるようにする。 | A | 「学びやすい環境」の定義がないので評価できません。 | B | 学びやすい環境について定義し、保護者、児童、教員で共有する。 |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|---|---|--|---|---|
| | | 保護者にも90%をこえる評価を得られており、その効果も伝わっていると評価できる。 | | | | |
| ②清掃指導に努め、校内を美しく保つことができる。 | <p>教員アンケート結果 (回答者24名)</p> <p>◎清掃指導に努め、校内を美しく保つことができましたか</p> <p>①よくできた 【39.1%】</p> <p>②できた 【52.2%】</p> <p>③あまりできなかった 【8.7%】</p> <p>④できなかった 【0%】</p> | <p>清掃指導の徹底が課題である。生活指導部と校内安全部が連携して、検討し、これまでと異なる手立てを提案、実施する。</p> | B | <p>清掃指導について具体的方策が必要である。</p> <p>保護者が清掃があまりゆきとどいていないと感じていることと、教員のあまりできなかったと感じていることに相関があるのか不明である。場所、方法、程度などに一致があるのか、内容の確認が必要である。</p> <p>コロナウイルスの感染拡大を受けて、健康面での対応の観点も考慮することが必要である。</p> | B | <p>清掃指導の具体的方策について、保護者アンケートの結果をふまえ、検討する。</p> |
| | <p>保護者アンケート結果 (回答439人)</p> <p>◎保護者の皆様が学校に来られたときの印象をお選びください</p> <p>①掃除がゆきとどいている 【27.6%】</p> <p>②概ね掃除がゆきとどいている 【52.8%】</p> <p>③あまり掃除がゆきとどいていない 【16.4%】</p> <p>④掃除がゆきとどいていない 【3.2%】</p> | <p>教員アンケートで、清掃指導について「よくできた」「できた」をあわせて91.3%、保護者アンケートで「ゆきとどいている」「概ねゆきとどいている」を合わせて80.4%であった。</p> <p>保護者アンケートで80%をこえているのは、校内を美しく保っていると評価されていると考えられるが、一方で「あまり掃除がゆきとどいていない」が16.4%と数値が高いことは、依然不十分な箇所があることを示しており、清掃指導の徹底が求められていることが推測できる。</p> | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|--|--|----------|--|----------|--|
| <p>(2) 豊かな人間関係づくり</p> | <p>①休憩時間や放課後、児童と共に時間を過ごすことを通して、児童の友達関係を観察し、関係を良好にする努力をする。</p> | <p>児童QUアンケート結果 (回答612人)</p> <p>ソーシャルスキル (4年生以上)</p> <p>◎配慮</p> <p>4年生 30.4点 (全国平均27.8点) 5年生 29.0点 (全国平均27.8点) 6年生 29.7点 (全国平均27.8点)</p> <p>◎かかわり</p> <p>4年生 28.4点 (全国平均24.3点) 5年生 26.1点 (全国平均24.3点) 6年生 27.5点 (全国平均24.3点)</p> <p>今年度、休憩時間に教員が意図的に運動場に出たり、教室で過ごしたりする姿が見られた。教員の中で、授業時間以外でも児童の安全面や児童同士の関係性について意識することの重要性は共通確認できていた。児童のソーシャルスキルの観点として「配慮」「かかわり」があるが、その両観点とも、全国平均を上回っていた。</p> | <p>授業時間以外の児童の様子や児童同士の関係について、継続的に共有する場を設定する。</p> | <p>B</p> | <p>「配慮」「かかわり」のスキルを高める具体的方策を検討し、実施することが必要である。</p> <p>昔の附天小では、運動会での先生チームのリレーがあったり、児童と先生と一緒にソフトボールをしたり等、楽しい思い出がありました。</p> <p>教員方の積極性に期待します。</p> | <p>B</p> | <p>令和元年度と同様、教員が積極的に児童にかかわることを重視する。</p> |
| | <p>②児童の友達関係の満足度を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p> | <p>児童QUアンケート結果 (回答612人)</p> <p>友達関係 ※満点12点</p> <p>1年生 10.7点 (全国平均9.9点) 2年生 10.8点 (全国平均9.9点) 3年生 10.8点 (全国平均9.9点) 4年生 11.1点 (全国平均10.0点) 5年生 10.2点 (全国平均10.0点) 6年生 10.8点 (全国平均10.0点)</p> <p>友達関係について、全学年、全国平均を超えていることは高く評価できると考える。ソーシャルスキルの「配慮」「かかわり」を意識的に高め、より友達関係を良好にできるように努力することが重要であると考えます。</p> | <p>今年度と同様、児童の友達関係を良好に保つことの重要性を、教員で共通確認し、問題の発見、即時対応に努めるようにする。</p> | <p>B</p> | <p>保護者同士のつながりの深さと比例すると思われる。</p> <p>PTA活動における縦と横のネットワークを充実することが必要である。</p> | <p>B</p> | <p>児童の関係を深めることの大切さをCCTなどを通して、伝え、保護者と教員でねらいを共有する。</p> |

